

マルチメディア・バトル in Cyber Space Sapporo'97

札幌発寒中学 荒島 晋 (arashima@netfarm.or.jp)

3月11～12日、札幌パークホテル・パークプラザを会場にCyber Space Sapporo'97が開催された。

セミナープログラム2として「マルチメディア・バトル in Cyber Space Sapporo'97」(主催:ACE)が行われた。

マルチメディア・バトルもCMMICのオープニングに行われた第1回から数えて4回目になる。回を重ねる毎に参加者に低年齢化が見られ、マルチメディアやインターネットが本当に身近になりつつあることを感じさせる。

さて、今回の発表者だが、アトリエ・アイリス造形教室(2)、札幌星園高校(初)、札幌新川高校(2)、札幌福井野中学校(3)、札幌発寒中学校(初)、そして、前回POEM'96での覇者札幌音楽専門学院(3)である。

さて、発表作品だがアトリエ・アイリスは小4～5の子供たちがディレクターを使って製作したタイトルである。発表は水越先生御自らである。水越先生のお人柄もあり場内大受けである。しかし、さすが水越門下生、レベルは高い。



司会は武田支部長とHTBの松田アナ

そして、星園高校パソコン部内新聞局の一人DTP状態の成田君である。初登場の初々しさを醸し出しつつも、独特のキャラクターに場内大受けである。まさに「高校デジタル新聞界の水戸黄門」である。

さて、バーチャル雪まつりで全国デビューを果たした新川高校美術部の登場である。ここは絵具を使わない美術部である。さすがにデジタルアン吉岡先生の指導よろしくレベルが高い。思わず会場も引き込まれる。当然のグランプリ受賞となる。なんでもレベルアップの秘訣は「指導しないこと」だそう。

ここで中学生が続く。福井野中学校マルチメディア部の登場である。何とも言い難い独特のキャラクター...本当は上方漫才研究会なんではないだろうか。作品も然ることながら、場内爆笑の渦である。次いで発寒中学校科学部がロッキーのテーマに乗っての

登場である。白衣姿が初々しい。さて、環境への適応力が弱いのか、どうも会場の雰囲気をつかみきれない。肉体労働ではどこにも負けない発寒科学部であるが...次回に期待したい。

とりを飾るのは昨年夏のPOEM'96 in 稚内での覇者「札幌音楽専門学院」である。セッティングにちと時間を要するところが実にマックらしい。久し振りに言うことを聞かない。しかし、



新川高校美術部三人娘

一度演奏が始まると会場はノリまくっている。マルチメディア・タイトルの作りといい演奏といい正にプロはだしである。これには見澤先生も鼻が高い!

いよいよ、梶谷・田崎・小林氏による講評と各賞の発表である。審査もなかなか難儀している。ちなみに各賞は次の通りである。

- ・グランプリ...札幌新川高校美術部
- ・賞...札幌音楽専門学院
- ・エジソン賞...札幌発寒中学校科学部
- ・賞...札幌福井野中学校マルチメディア部
- ・賞...札幌星園高校パソコン部内新聞局
- ・賞...アトリエ・アイリス造形教室

さて、回を重ねる毎に作品の内容だけでなく、プレゼンテーションもレベルアップしている。次回のマルチメディア・バトルが大いに楽しみである。



札幌音楽専門学院「Mind Drive」

PHS でインターネット！ いよいよ 4 月より開始！

札幌新川高校 吉岡 隆 (yoshioka@netfarm.or.jp)

heml で現役高校生の森田君（札幌旭丘）が詳しくレポートしてくれていましたが、4 月より PHS の 32k データ通信がいよいよ開始されます。電話回線が自由に使えない学校でも、メールを読んだりネットサーフができる（？）訳です。そこで、一体どんなサービスなのか NTT パーソナル法人営業部松井さんにお話を伺ってみました。

従来の PHS では、イヤホン端子とモデムをつないで音声による「みなし通信」を行っていましたが、32k データー通信では 32k 対応の PHS と PIAFS カードというものがようになります。端末は PCMCIA のスロットがあるノートパソコン（Win95）での使用となり、下の図（NTT パーソナルのホームページより）がその接続イメージです。

32k データ通信は、TAP という 32k 対応のプロバイダーのアクセスポイントに接続しますが、PTE という中継基地を通ることによってプロトコル変換をかけアナログ 28.8k の通信も可能です。（ただし、PTE 変換の場合は、プラス 10 円課金されます。）

NTT パーソナルでは、4 月をお試し期間として無料で 32k 通信を体験することができます。電波の弱い室内は、窓際にホームアンテナを設置することによって安定した通信も可能です。私も 4 月 1 日午前 0 時のサービス開始にむけて、一式揃えましたので、その使用感など来月の移動体通信の研究会の際でもレポートさせていただきます。

32k データー通信の情報は、<http://www.nttphs.co.jp> をご覧ください。

4 月研究会のお知らせ！

1997 年 4 月「ACE Hokkaido 教育研究会・技術講習会」を NTT DoCoMo 様のご協力にて下記のとおり開催いたします。ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

■テーマ：「モバイル・コンピューティングの教育活用」

■日時：1997 年 4 月 26 日（第四土曜日）

14:00～17:00

■会場：NTT 北海道移動通信網株式会社 本社ビル

060 札幌市中央区北 1 条西 1 4 丁目 6

TEL 011-242-5730/FAX 011-252-5588

* 駐車場はあまりありません。近隣の方は公共交通機関をご利用ください。

■当日連絡先：武田携帯電話 030-114-8910

■内容：

- 1、「モバイル・コンピューティングの最新技術動向とこれからの展望」
- 2、モバイル・コンピューティング体験
- 2、ACE「移動通信網を活用したインターネットによる生徒間交流の実践的研究について」
- 3、「わたしたちの町プロジェクト」、「デジタル学校新聞プロジェクト」、「北海道教育メーリングリスト」、「World Middle School Olympic」、「北海道教育人間地図プロジェクト」、「バーチャル学習指導要領プロジェクト」などについて
- 4、各学校での取り組み報告

■懇親会：

研究会終了後、懇親会を行いたいと思います。

参加できそうな方は、当日までに、事務局、ACE メーリングリストまで

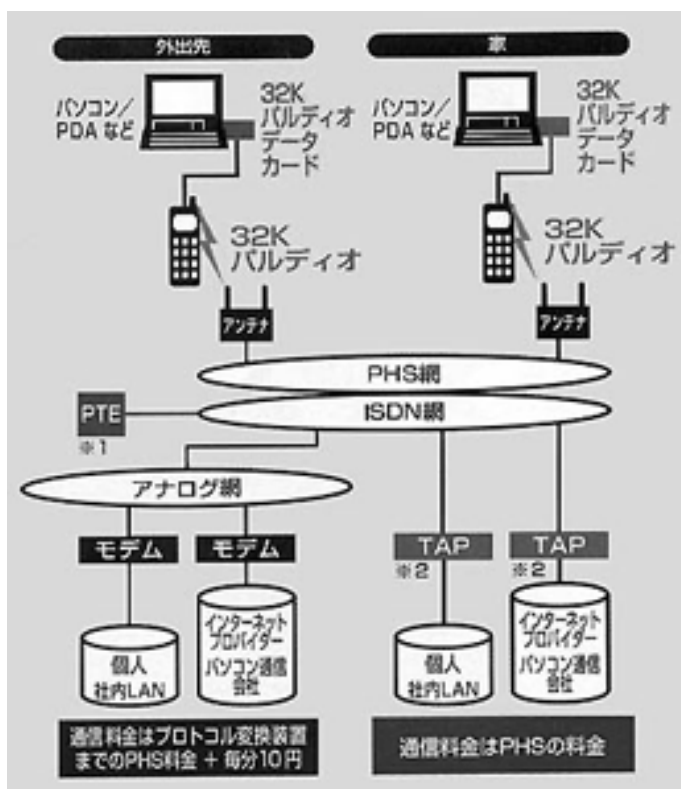
絶好調！！「北海道の教育 メーリング・リスト（HEML）」

札幌発寒中学 荒島 晋

NewsLetter でも再三案内している「北海道の教育メーリング・リスト」だが、アナウンスから 3 週間あまりで登録者が 100 名を超える勢いである。参加者も教職員だけでなく、保護者の方、マスコミ関係の方、学生そして現役の高校生などと実に多岐に渡る。如何に多くの方が教育に関心を持ち、語り合う場を必要としていたかが如実にわかる。多くのデジタルアンがこのような場を待っていたのである。

HEML は道新の教育欄（毎水・朝刊）や南平岸インターネット（HTB）などで取り上げていただいたが、その宣伝効果の高さに改めて驚いている。E-mail を使った交流であることから、さらに道新のデジタルアン（夕刊だよ！）当たりで取り上げていただくと更に増えるかもしれない。そういえば、ラジオがまだだったな

....



HEMLでの話題も学校とコンピュータ(ネットワーク)、性教育、校則問題、さらには学校と報道など本当に多岐に渡る。当然FQA的な内容もあるし、そのような話題も無論OKである。

HEMLのようなオープンな場が、学校への誤解をなくし学校への理解や協力を得る手助けになるだけでなく、学校とそこに勤務する人間自身の垣根を取り払い、学校教育のグラスノチスやリストラが進むきっかけともなるのではないか。教育は当然学校だけが教師だけがやるものではない。まして、公教育は社会の負託を受けて成り立つのである。そのために「聞く耳」を持ち、取り入れるべきは取り入れ、理解を求めるものは理解を求め続けていくことが大切である。学校は隣であって校種が異なればなかなか交流の機会がないのが現実である。教育におけるネットワーク利用は今までやりにくかった異校種間の交流をも手軽に行えるようにするのである。

北海道での『開かれた学校』教育を一層押し進めるためにもより多くの参加者を待っている。

ACE-NetもTCP/IPになることだし、ACE北海道支部の会員におかれては『全員登録』をお願いしたいものである。(もちろん強制ではない)

最後に、HEML開設に当たってサーバーの設定・維持・管理、積極的な話題提供に尽力くださっている稚内北星学園短期大学の皆さんに心から感謝する次第である。

移動体通信を活用したインターネットによる生徒間交流の実践的研究について

支部長 武田 亘明 (takeda@netfarm.or.jp)

(<http://ncf.oroppas.or.jp/project/education/mobile/index.html>からの抜粋)

■呼びかけ人

The Association of Computer and Education (ACE)
教育とコンピュータ利用研究会 会長 渡辺 隆

■研究の目的・意義

高度情報通信社会がますます進展していくなか、情報教育の必要性が指摘され、小・中・高等学校においては第二期のコンピュータ整備計画が進められています。

昨今のインターネットの急速な普及に見られるように、コンピュータはネットワーク上で使われてこそその真価を発揮するとも言われています。しかし、学校におけるコンピュータ・ネットワークの活用はまだ十分とはいえません。

本研究は、複数の学校を移動体通信を使ってネットワーク化し、生徒の情報活用能力、表現力、コミュニケーション能力などの諸能力を育成していく上でコンピュータ・ネットワークが生徒にどのような影響を与え、どの

ような効果があるのかを実践を通して明らかにしていくことをねらいとしています。

また、それにとまってインターフェースとしてはどのようなものが生徒にとって有効であるのかをも研究の対象としていきます。

■研究実施計画

1、コンピュータ・ネットワークを活用を通じた生徒の情報活用能力に関する調査研究

協力校の生徒を対象に質問しによる調査を行い、コンピュータ・ネットワークの教育活用の効果を縦断的にとらえます。

2、教育的利用価値の高いサーバの構築

サーバソフトにはインターフェースとしての自由度の高いFirstClassを使い、生徒間交流を進めていく上でどのようなインターフェースが効果的であるのか、学校において自在に改編できるサーバの構築はどうあるべきかの2点に重点をおき研究を進めます。

3、コンピュータネットワークの活用の表現力やコミュニケーション能力の育成に関する研究

協力校の生徒間交流をとおして、生徒の表現力やコミュニケーション能力がどのようにして変容していったか、その際の教師の支援の在り方はどうあるべきかを実践をとおして検証します。

4、移動体通信を活用したネットワーク構築

移動体通信を活用して、通常の特定の場所への電話工事を行わず、学習活動の物理的制限をとりはらったネットワークの構築実験を行います。

5、サイバースクールの構築

いつでもどこでもインターネットによるデータ通信の活用可能な学習情報環境において、各種協働(コラボレーション)学習を行い、学校、教室、地域の枠を超えたダイナミックな学習活動の場としての、サイバースクールを構築し、「デジタル学校新聞プロジェクト」、「バーチャル雪まつりプロジェクト」、「わたしたちの町プロジェクト」、「ばーちゃる理科実験室プロジェクト」を行い、協働学習、協働学習指導の望ましい在り方と課題を明らかにします。

6、ネットワーク活用上の今日的課題への取り組み

特に、個人情報保護条例との関連で、学校においてコンピュータネットワークを活用する上で留意すべきことを整理し、ガイドラインを作成します。なお、このガイドラインについては、ホームページとして公開し、さらに幅広い視点から意見を頂戴して検討を継続していきます。

■研究の年間スケジュール

* 4月：研究計画の調整、協力校選定・依頼

- * 5月：ネットワークサーバの構築、協力校への機材の設置
- * 6月：研究実践の開始
- * 7月
- * 8月：中間調整 1、研究中間集約
- * 9月
- * 10月：中間調整 2、研究計画の修正
- * 11月
- * 12月
- * 1月
- * 2月
- * 3月：研究の最終集約

■ 予想される研究の成果

- 1、情報活用能力育成上での成果
- 2、十分に利用可能なインターフェース構築の成果
- 3、生徒間コミュニケーション能力の育成上での成果
- 4、有効な無線 LAN 設計上での成果
- 5、学校におけるコンピュータ・ネットワーク利用に関するガイドラインの提示

お久しぶりのこの企画！！

新・旧会員寄稿

記念すべき第 1 回

千歳祝梅小 半沢 雅宏 (hanzawa@netfarm.or.jp)

3月24日、午前7時50分頃。いつものようにキーボードの
パワーキーを押す。

「あれ？動かないぞ？」

そうです！私の Duo250 は死んでしまいました。何をしても、
「じゃーん」とも言いません！「にこにこまっくん」もでませ
ん！「かなしみのあるべじお」(?) もなりません。完全に死んで
しまいました。

でも、不幸中の幸いは、今日は終業式。明日から春休みなので、
とりあえずワープロを使う可能性は低いこと！？

最大の不幸は、この原稿の書きかけが二度と開かない？ハード
ディスクの中にあること・・・

突然、不幸のずんどこにいるような内容ですみません！！

はんざわ@ちとせあめでございます。ごぶさたしておりました！

思い出せば3月18日。祝梅小学校の卒業式の日。具合が悪く、
午後から自宅に戻っていたら、電話が・・・

「もしもし、道新の青柳ですが、、半沢先生に原稿をお願いします。」

「それって、もしかして旧会員紀行ですか？」

「いいえ、新コーナー第一号です。」

「じゃあ、新！旧会員紀行ですね？！」

(なんて訳のわかんない会話でしょうか？半沢の頭は完全に風邪
にやられていました)

良かったのは「旧会員」という文字が「休会員」でないこと
です。しばらく顔を出していなかったので忘れられそうです。(反
省！)

さて・・・十文字数を稼いだので、本題に入りましょう！！

今年、やっと千歳市内の小学校にコンピュータが入ることにな
りました。パチパチ！！ 各校3台(小規模校は2台)パチパ
チ??

一応導入検討委員会なるものがありまして、委員になっていま
す。でも、検討基準なるものは無し！何のために導入するのが
ないので、機器を見ても比較しようが無い！呼んだ会社も4社！
デモの仕方もバラバラで・・・とりあえず導入のための手続きの
ステップかな？なんて思ってしまう内容でした。で、何となく地
元企業に決定しているような雰囲気・・・

まあ、「まど95?」が動けばいいのかもしれないのですが・・・
どこの機械であってもほとんど差はないのかもしれないので
すが・・・

何のためにコンピュータを導入するのか。どのような活用法が
あるのか。そのためにはどのような機器(周辺機器も含めて)・OS
がふさわしいのか。どんなソフトを活用していくのか。などな
ど・・・そんなことを考えていく必要があります感じがしてい
ます。

いつも不満を言っている始まらないので、なにかやってみ
る！いろいろな学校の先生方と協力してより多くの先生方にコン
ピュータにふれていただく機会をつくっていきたいと思ってい
ます。

さて、問題の電話回線とは言いますと、まったくだめ！さらに、
東京の件から、ホームページも出さないようにという話がありま
した。情報公開条例の整備からというお話でしたが、「子どもの作
品と名前をのせて、何が悪いのか？」という疑問には答えていた
だいていません。子どもたちは作品展などに出品しています。文
化センターに掲示すること。標語を看板やポスターに名前入りで
のせていること。インターネットというだけで何か情報公開とい
う壁、アダルトな内容というイメージから抜けることができない
でいる感じです。(きっと会員のみなさんからは、何もしてないか
らそう思われるんだぞ！というおしかりの声が聞こえてくるよう
です！！)

(いつも思っているばかりで何もしていなかったで・・・今度
こそ！！)半沢はすぐSOSを出しますので、助けてくださいませ。



はんちゃんできーす！

失敗を楽しもう！

サテライト 伊藤 明彦
(itopi@mic-mac20.bug.co.jp)

おじさん達はパソコンが怖い？慣れていないことには誰でも戸惑うことだろうが、失敗する若者を見て「青いな。」と妙に感慨深くニヤリとする経験豊かなおじさんは、自分が「青い」とは夢にも思いたくないし、そんなことを認めるわけにはいかない。

「これからは、ひとつ若い人にがんばってもらおうじゃないか！」

先人として、自分の経験を続く者のために活かそうとするどころか、いきなりその場で荷を降ろそうとすれば、問題が起きるのは明白である。

ところで、日本の社会には、「責任を果たさない」という参加の仕方や、「決して行動しない」という運動の方法があるのではないかと、以前から考えてきた。学校でも、「ところで君はどうしてそう考えたの」というプロセスは必ずしも中心課題にはなりにくい。「うまくいく」という結果ばかりが非常に重視されることが多い。失敗から学ぶというよりも、失敗しないで済むための方法を先に学んでしまう。求められる姿に自分の側が近づくこととすることで参加できる「成功報酬」の社会が自然に刷り込まれてしまう。

「みんなと同じことが出来るようになって良かったね！」と育てられ、「そんなことをしたら他人に笑われますよ、恥ずかしい！」と萎縮してしまう。「華麗に失敗する」ことを考えるような潔さがないので、結果として、自ら学ぶためのチャンスが逆に少なくなる。また、失敗を恐れるあまり、責任をとらなくてよい風にしか行動できないようになる。

もしかすると、外国語を使うことが日本人にとって苦手なのは、失敗することが恥ずかしいので、実際に試してみることが出来ないということが原因ではないだろうか。たとえ少しくらい間違っても、自分から話してみなければ何も起こらないし、それが自分の存在理由や経済的価値を否定されるような原因になるとは思えないのだが？

「一体、どうしてだれかのせいにするんだ！」と言いたくなる。

自分が脅かされるような危険をけって犯さずに自分を飾りたいという、メランコリックな気分が蔓延する理由はここにあるのではないだろうか？「参加しないことで自分を守る」あるいは、「決断を避けることで責任の重圧から逃れる」という態度は、自己の内面に起こる精神的ストレスを抑圧してしまうだろう。

この自己矛盾は鎧の上に鎧を重ねても解消はされることはない。したがって、こうした自己矛盾がやがて自己否定に繋がってしまうようなケースは少なくないのではないだろうか？本人の意志が示されないままで作られてしまった「自分」という存在に対する不安や戸惑いは、「私は何者なのか」、あるいは「私はどうしたいのか」という問いとなって誰の胸の内にも潜んでいる。社会という経済システムのなかに埋没してしまった自己の存在理由を必死に探そうとする程に、「矛盾した私」という社会現象から逃れることが出来ない。時には、それが一種の自失願望として現れてしまうことも考えられる。

ところが最近、事情が少し変わってきている。「パソコンは色々なことに使える」、しかも、感性や表現力がなかなか物を言うことが解ってきた。

さて、「ところで、そう言えばどんなことをしたいんだっけ？」

ということを実際に考える必要が出来てきた。

受験科目にない音楽や美術は、これまではあくまでも趣味であり、経済的な意味では、生きることにあまり必要ではないとされてきたのではないかと？流通の変革や、経済価値についての再考が必要になって来てしまった現在、「ところで、何言いたいのか？」を考えることが、かえって切実な問題になってきたのではないだろうか？実は情操教育は、「生きる」ための動機を学ぶという意味で、生きること自体により密接ではないかということが、以前よりも格段に言い易くなってきた。

「表現」するための動機は、どんな人にとっても共通のものだと言える。美術や音楽や演劇の能力は、本来、言葉を喋るのと同じレベルで必要なものであって、今までは、不当に軽視されてきたのである。意志と意欲を持つための動機を学ばずに一体どうやって生きていけるのだろうか。情操教育は遂に反逆の時期を迎えた訳である。

「だから言ったでしょ！」

どうせ平等に与えられている条件は「精いっぱいやってみる」という以外にはないので、取り掛かる前から出来映えを気にしたところでしょうがない。たとえ誰に何と言われようとも、「やるだけやった」ことに間違いなければ立派なものです。あなたは、単に結果が他人と同じなら嬉しいだろうか。それよりむしろ、自信を持って思いっきり失敗してみても如何だろうか。当たり障りのない結果よりも、チャンスを失う方がもっと惜しいと思いませんか？

「ACE 学習指導案集」 をお分けします

事務局

全国の ACE の先生方の実践をまとめた「ACE 学習指導案集」が発行されました。北海道支部からは札幌発寒中・荒島先生、千歳青葉中・山田先生、札幌福井野中・佐藤先生、札幌新川高・吉岡先生の事例が紹介されています（北海道勢、強し！）。

小、中、高、特殊それぞれ教科範囲も広く扱われ、図表入りで分かりやすくまとめられています。とりあえず支部として、20 部ほどが事務局にありますので、ご希望の方は支部あてメールか電話でどうぞ。

支部事務局（道新情報開発本部 青柳・吉田）

011-210-5506

aoyagi@hokkaido-np.co.jp、yoshida@hokkaido-np.co.jp

追伸：貸出機あります！！

貸出機 1 台あります。

Performa588 メモリ・HD は最低レベルです。ご要望は上記まで。

編集後記

Duo が死んでしまいました。電源をいれたら自殺してしまったようです。

というわけで、今日は、情報開発本部まで原稿を持ってきました。人間 Eudra になってしまいました。なんと大変なことか！人が運ぶと千歳から 1 時間かかります。メールだったら何秒？何分？ネットワークって便利ですね。でもいつ落ちるか分からない恐怖と戦う自分が情けない！！

今年度は原因不明のエラーとフリーズの嵐、最後に Duo の死亡！！4 月からの新年度がまっく君にとって自己や怪我の無い一年間でありますように！！（半沢）

早いもので、3 月が終わりいよいよ新年度を迎えます。昨年度は初めての転勤がありました。早々に科学部を設立しホームページを立ち上げ？、中文連札幌市中学校私たちの科学研究発表会では発表会初のコンピュータを使った生徒のプレゼン、バーチャル雪まつり雪像製作への参加、夢科学'97CG グランプリ中学高校部門での佳作受賞、そしてマルチメディア・バトル in Cyber Space Sapporo '97での発表と充実した 1 年を過ごさせていただきました。

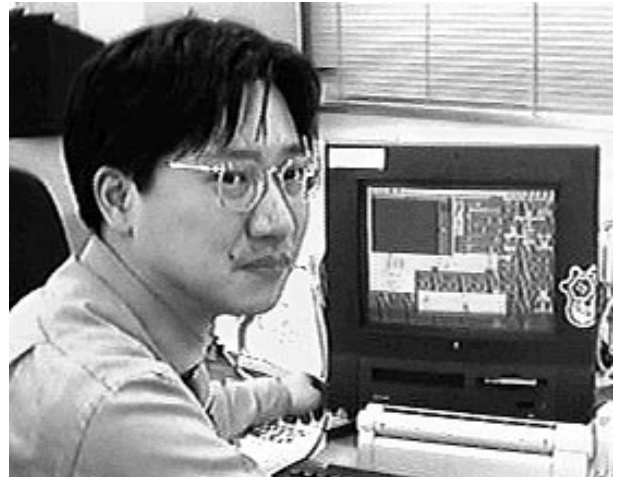
また、ACE 北海道支部 ML や北海道の教育メーリングリストの開設、支部ホームページの全面改訂などますます活動が活発になってきています。しかし、振り返るといつものメンバーでやっているのです。新年度は若い新たな仲間を増やし、老人たちは隠居生活の振りをして院政を敷くことをしなければなりません。皆さん布教に専念しましょう。（荒島）

うーん、今日はどうしてこんなに人が少ないのかな？あんなにしつこくメールでお知らせしたのに、みんなつめたいんだからあ.....あっそうか、今日は終業式だ。いまごろはみんなお酒を飲んで、すすきので生徒とバツリご対面してるのかあ。いいなあ。と思いつつメールボックスを開けたら、おお、原稿の山だ！！おかげさまで史上最少人数の編集会議は、6 ページの大作とあいました。ネットワークを使いこなすサイバーティーチャーのみなさん、ありがとうございました。でも、来月はぜひ、ぜひお越しくださいませ。

さて、長期のお休みをいただいております人気連載「旧会員紀行」が装いも新たに「新・旧会員寄稿」として今月より復活いたしました。次号からも数々の奇行を期待してピンバシ指名いたしますので、よろしくね。（青柳）



眠りながら作業を続ける青柳隊員



俺が新編集長の吉田だ！！

皆さんはじめまして。わたしが吉田です。噂の ACE 北海道にこのような形で加わることになるうとは努々思っておりませんでした。

さて、学校へのコンピュータ導入に際して先生方が自腹を切られたり、ネットワークの敷設にご苦勞なされたりという状況もあるやに聞いておりますが、私の前いた職場も似たようなものでした。私が職場に Mac を持ち込んだのが 4 年前、使っていない電話からモデムの線を引き、台数が増えるとネットワーク対応のプリンタを買い込んだり、部長に内緒で壁に LocalTalk のケーブルを這わせたり……。本当はばかげてることなんだけれども前に進んでいくためには必要なことと自分に言い聞かせ、周囲を説得してきました。そんな甲斐あって 30 人弱の職場で自分の Mac を持ち込んで使っているのが 10 人ほど居り、ネットワークやその他の資産は脈々と息づいています。会社や上司を説得してゆくことも大事ですが、とにかく実践あるのみと押し進めてきた結果に満足はしています。21 世紀を目の前にして足踏みをしたり後ろ向きに進んでる暇はありません。とにかく前進あるのみ。宜しく願いいたします。（吉田）



マルチメディア・バトル グランプリ作品
『夢の跡』（札幌新川高校美術部）

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997 年 3 月 25 日発行